



12月の園だより

「ほめる」ということ

秋という季節が無いままに、夏から一足跳びに冬を迎えてしまったような気がして、もも組、さくら組の弥彦公園探険の写真を改めて見返しています。

園には寺尾中央公園のお散歩帰りのお土産に、桜や銀杏の落葉が届き、季節は確実に順繰りに巡って来て、折々の美しさを見せながら子どもたちの楽しみを広げてくれるのだと、自然への感謝の思いをつのらせていきます。

深まる秋には、冬と重なる部分が多く、二倍の楽しみ方ができています。一方、インフルエンザの広がりや懸念されると、これは報道で既にご存知の通りです。

体調を崩しやすい時期でもありますが、具合が悪い時には早目に休ませて、「何か良いところがありそうかな」12月で、また大活躍をさせてあげたいと思っています。
よろしく願います。

第38回幼児音楽フェスティバルは、11月25日・26日の2日間に亘り、新潟テルサで開催されました。

松の実25日の第一部で、ひよこ・たんぼぼ・うめ組の憧れと熱烈な応援を受けて、もも組・さくら組が見事なチームワークで太鼓・ボンボン・カラーガードの演奏演技を発表して来ました。

運動会でご覧いただいて以来の大舞台でしたが、子どもたち自らが自らの変化に自信を積み重ねてきての演奏演技には、「泣けました」「やってくれました」のお声と共に会場から感動の拍手が沸き起こりました。

様々な状況を押して、もも組・さくら組全児の舞台を叶えて下さった保護者皆様に心から感謝申し上げます。

本当に有難うございました。

生活発表会は12月15日・16日です。子どもたちが春から親しんできた園生活を、劇・おゆうぎ・合唱・合奏などに託してステージで発表します。今まで体験したものを基に、励まして助けて合せて発表することを楽しめるように、意欲を高めて参ります。

当日は、可憐で、そこに居てくれるだけで可愛い・カッコいい・頑張っているなどなど様々な姿を見せてくれる全ての子どもたちを誉めてあげて下さい。

誉めるということは「出来た」ことを讃えるのではなくて、「変わった」ことを認めてあげることなのです。

去年より今年、そして今日から明日へつながる自信は、変わってきている自らが気付かせてあげるあなたか、い働きかけがなければなりません。2日間に亘って送られる沢山の拍手と慈愛に満ちたまなごしはそのための大きな一歩です。

22日、サンタさんが5人も来てくれるクリスマス会を終ると間もなく街は一転、お正月の飾り付けに変わります。

来る年も、「ふれあい広場」で作るカレンダーの一日一日を、子ども自らが自らの変化に気付ける愛の日々にしていただけますようにと祈ります。

※22日のサンタさんをお引き受け下さったおじいちゃん、ありがとうございます。
※クリスマスプレゼントは後援会からです。ありがとうございます。

園長 福田孝子